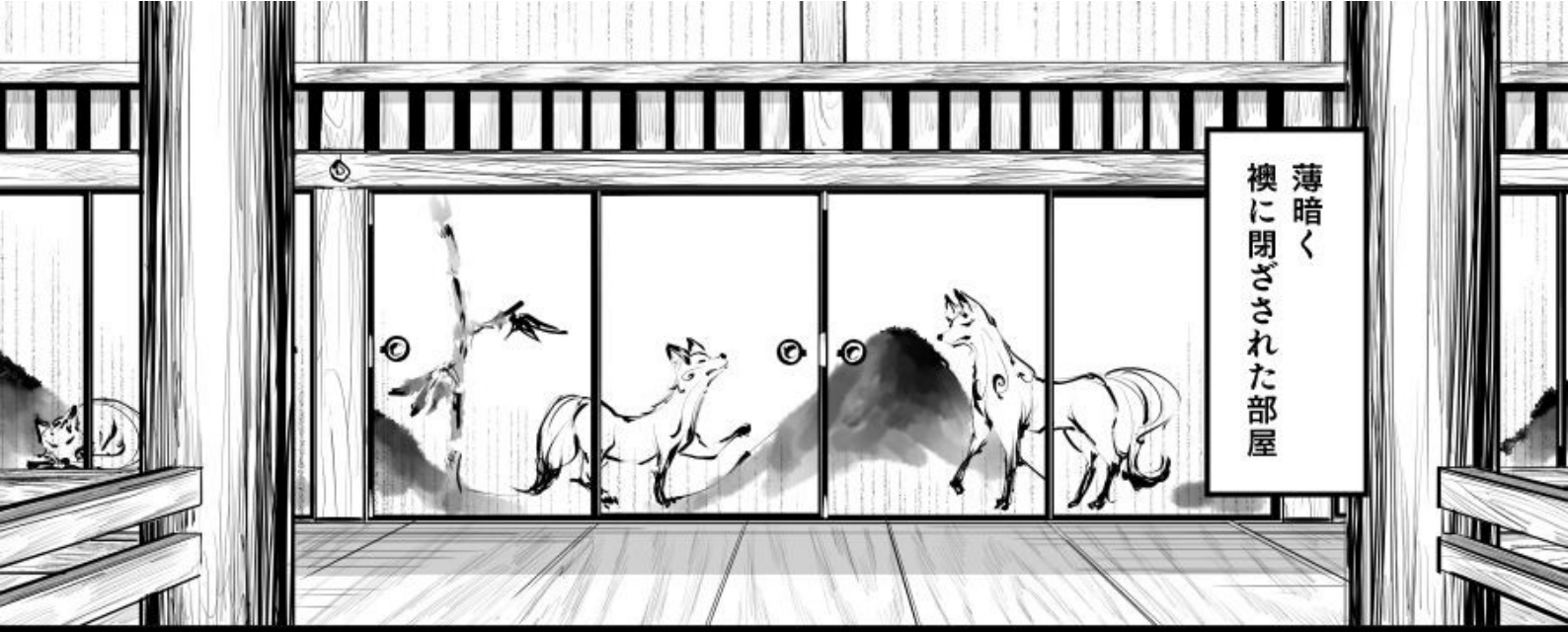


# HEART BLESS

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

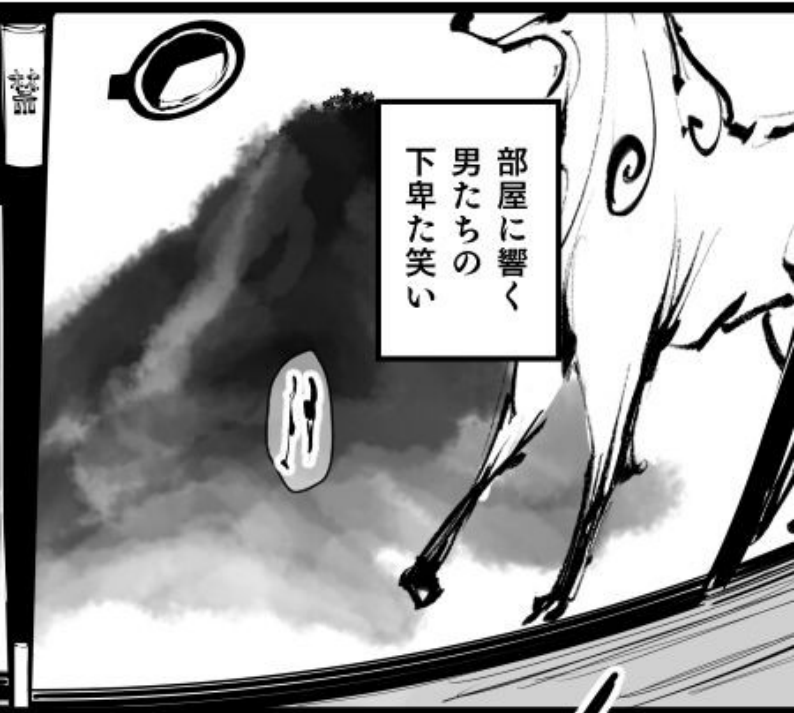


薄暗く  
襖に閉ざされた部屋

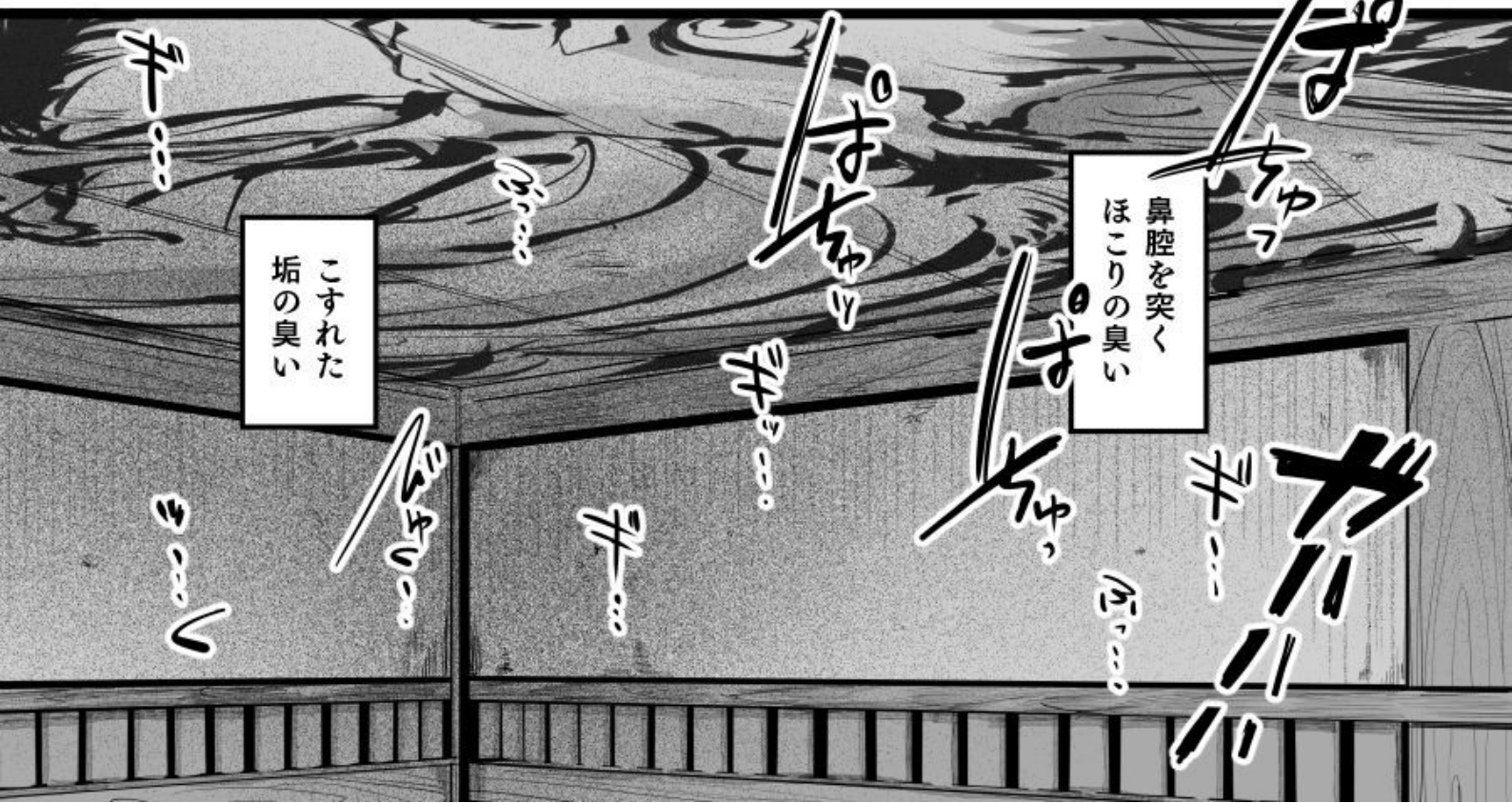


人肌と人肌が  
ぶつかる音

荒い息遣い



部屋に響く  
男たちの  
下卑た笑い



こすれた  
垢の臭い

鼻腔を突く  
ほこりの臭い



男女が  
交わる臭い

ふう…

アッ



この男たちを  
競わせ満たす  
ためだけの場

そう焦らんと  
代わってやるから

へへ…  
ひと月ぶり  
だからな…



出した  
出した

は…

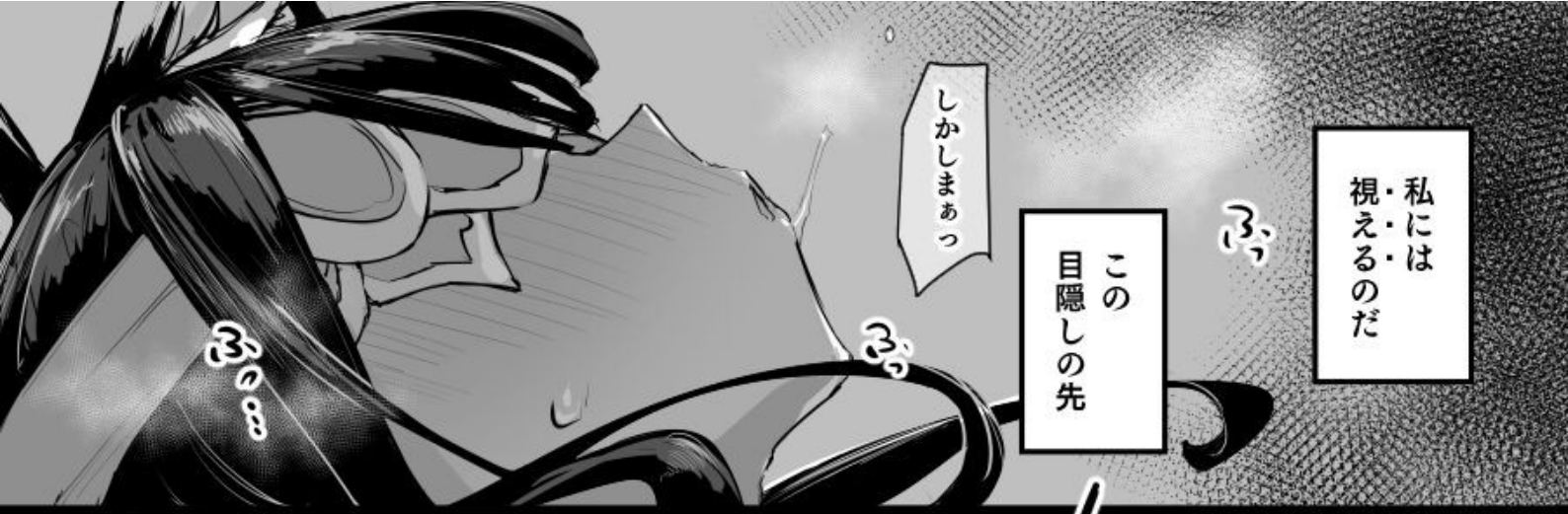
ああ…ここは  
蟲毒なんだ

は…

おら  
早く代われ

ふん

ふん



私には  
視えるのだ

この  
目隠しの先

しかしまあっ

333

333



もうちっと  
反応が欲しいがね

部屋の  
様子も

もう慣れて  
きたろうに

面をした  
男たちも

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽん

ぽんぽん

333

333



その面の下

恨むなら  
俺らじゃ  
なくてっ

家を恨みなっ

カオ  
どんな表情を  
しているのかも



私は生まれつき  
特殊な眼を  
持っていた



時間だ  
来なさい

春の日  
私はこの  
伏見家に  
生を受けた



人ならざる視点



あらゆるものを  
見通す千里眼



武術と巫術


「強きを以って  
この国  
御四季を先導す」

当主である父からは  
常に目隠しをし  
千里眼を磨くよう  
命じられた




この異形も<sup>耳と尾</sup>  
力を求めた契約の  
名残だと母から  
聞いたことがある

父は厳しい人  
だったが  
母はとても  
優しくかった




母が亡くなった日  
私は一日中部屋に  
押し込められた




この日だけは  
千里眼を使うことを  
固く禁じられた

元々持病があった  
母は笑って  
逝ったのだと  
父は言っていた



襖の向こう

私は全部  
視ていた



幼心に  
この家は  
おかしい  
のだと  
思った

十の夏  
あの「準備」が  
始まった

皆はもう  
集まっている

挨拶しろ

先日<sup>おと</sup>十となる  
日を迎えました

伏見忠宗が娘  
伏見千津子と  
申します

へへ…  
ようやく…

ながらで良い  
皆の衆は査定を  
始めてくれ





強い子を成す  
ため…にはっ  
強い子種が  
必要で…す



ご存じの通りっ…  
この家…では…  
強きを重んじます

小そうて  
可愛らしいのう

キリエ様を  
思い出すわ



乳首も  
ピンと上を  
向いとる



より多く…の  
子種の中から  
最も優れた個を  
選出するため…っ

そげな  
怖がらんで  
ええ

来たる五っ…年後

十五となる日の…っ  
種仕込みに備え…

すぐ良くして  
やるでな



伏見家…  
ひ延いては近隣…っ  
里の皆様…には

お力添え  
頂きたくっ  
…存じます

立派にお家の  
お役目こなして  
しっかりした  
子じゃあ



こっちは  
どうだ？  
ん？

…っ！

うは  
柔こいのう

ちと  
小便臭えな



こりや  
間違いない  
男を知らん穴だ

ははっ  
んなもん  
知っとるわけ  
なからうが

これから  
知ること  
なるけどな

儂らみてエ  
なんにも  
開放されて  
ありがてえ  
こった

流石は伏見家様  
今回も上玉じゃ

んじゃ早速  
楽しま…っと

助力させて  
いただくか

もわぁ…

種の仕込みと  
関係ねえ事も  
教え込んでええ  
言うとったけれど

ほんとかいな

当主様の  
お墨付きじゃ

良え良え  
いえいえ

初めてのコレ  
気になって  
しょうがねえか

怖かねえで

舌先で  
舐めてみい

ん…

アロ…

昨日まで  
里で会うても  
会釈する  
くらいの間柄

一夜で口淫まで  
お願いできる仲に  
進展してもうた

ガッ

おっと歯ア  
気いつけて  
くださるな

んん

んん



喉も使えるように  
ならんとな

まだ啜え  
きらんだろ

こっちは手で  
しごいてみて  
ください



そろそろ...っ  
射精すぞっ



ぎこちねえが  
それが逆に...っ

まあ最初の  
うちは前戯から  
じゃのう

んで  
処女は誰が  
貰うんじゃ

それならもう  
決もうとる

今のうちから  
よう身体に  
染みつけとけ



どうじゃ  
初めての  
子種は？

...美味しく  
ない...です...

そかそか  
そのうち恋しゅうて  
たまらんるでよ

はー！  
初心で  
ええのう！



吸い付いて  
離さないぞっ

すっっっ…

ゴキウッ

ポッ



初めては  
五つ上の分家の  
義兄様あにさまだった

分家の…

ああ…

千津子ッ!

千津子ッ!

あに  
義兄さまっ  
落ちっ…

落ち着いて…っ

ぽんっ



ぽんっ

聞いちゃ  
いねエ

そら初めての  
まぐわいだもの

ほらほら  
若様!  
もつと  
気張って  
腰振らないと

ぽんっ

中に出すぎっ

は

は



お前も気持ち  
いいんだな!  
千津子ッ!

こりゃあいい

どキウッ

どキウッ

どキウッ

ちが…っ



※生理。







あれを初めて抱いたのもお前と同じ十のとき…

あれは…ッ  
いい女だった



お前の母に瓜二つだ…



お前も伏見家の女としてッ

男を悦ばせ強き子を孕めること…

感謝ッ

つまるところこいつらは待っていたのだ





叔父は  
弱い人だった

兄上！  
まだ千津子は  
十です！

この家では  
落伍者という  
扱いを受けていた



私は叔父を  
慕っていたし  
叔父は実の父の  
ように私と  
接してくれた



正解！



五…かな



けれど  
私の知る限り

この家で  
最も温かい  
人の心を  
持っていた

これは？



母が亡くなって  
からは週に一度

父には秘密で  
二人で母の  
墓参りに行った

母から私を  
頼まれたと  
よく言っていた



お前はそれを  
通せるほど  
強いのか？

んっ

んっ  
んっ  
んっ

しかしッ！

それが  
決まりだ



千津子には  
二度と  
会わせるな

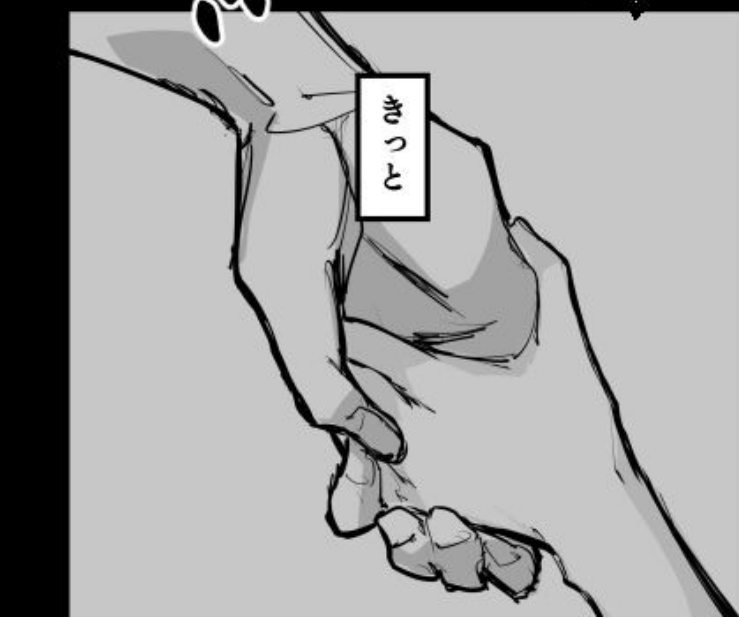
しばらく  
幽閉しておけ

んっ

お前を  
助け出す!!

信じてくれ!!

千津子!!



きつと



けれど  
いつか

それがいつに  
なるかは  
わからない

三年が経った  
十三の秋

千里眼の噂が  
帝の耳に届き  
父と共に都へと  
呼ばれた

帝は大層  
千里眼に  
興味を持たれた

—千里眼の活用

—国の利益

—仙国

—夢魔

—不死の法

飛び交う言葉に  
私の出る幕は  
なかった

手配された  
屋敷への帰路

父は珍しく  
上機嫌だった

今晚人と  
会うとだけ  
言っていた





このとき  
私は

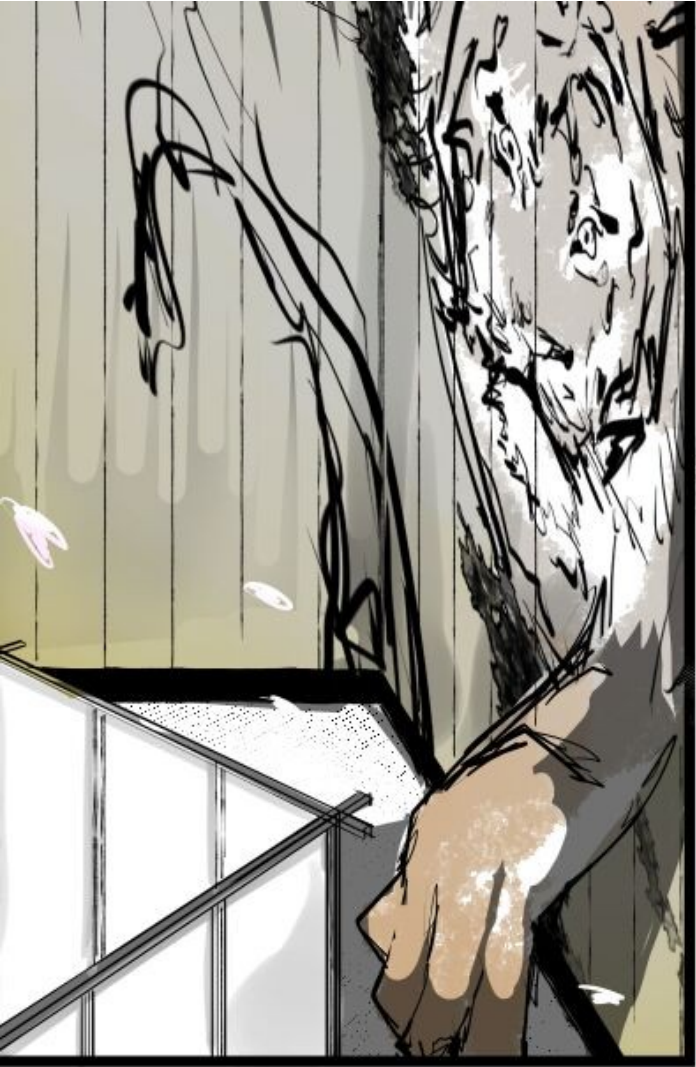




世界で一番  
美しいものと

世界で一番  
醜いものを

同時に見た



そう思った

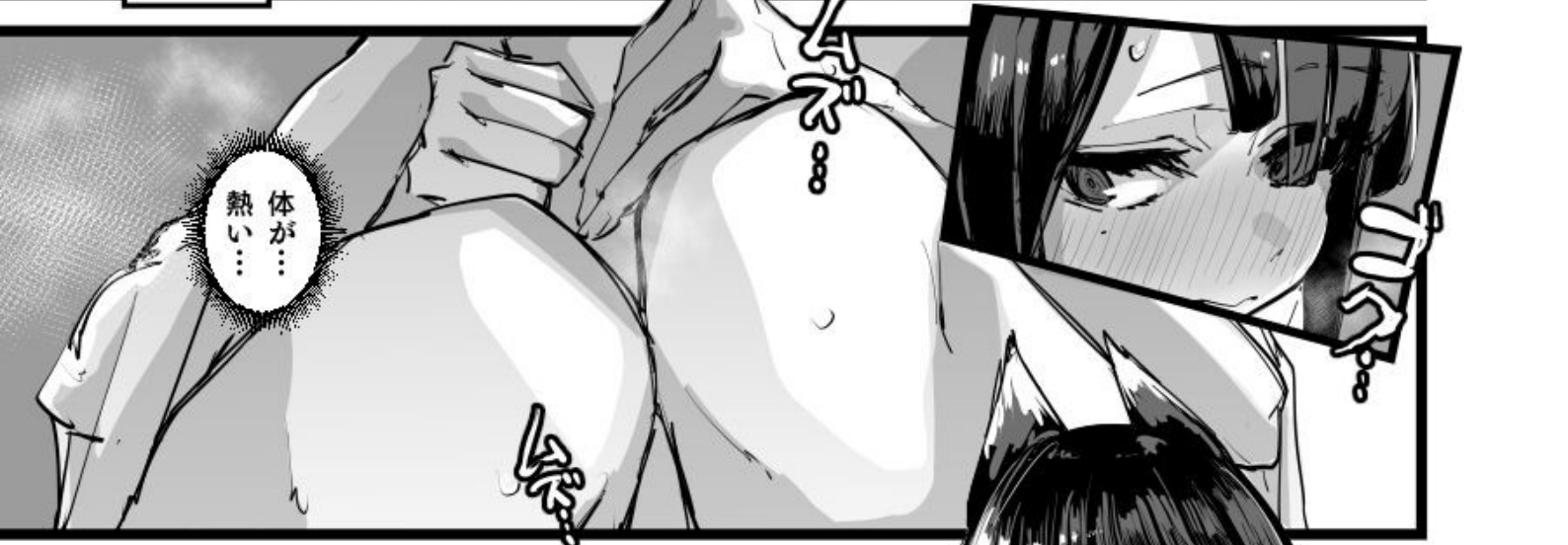
世界は  
こんなにも  
色鮮やか  
だったのかと



醜美二匹の  
生き物が蠢き  
絡み合い

一匹の生き物の  
ようになっている

その光景から  
目が離せなかった



体が…  
熱い…



こんなこと…

私は  
はじめて

自分の意志で  
自慰をした

気持ち悪い  
だけなのに…

父はひたすら  
女に腰を打ち  
付けていた

片隅で自慰に  
ふける私に  
気づかぬほど  
夢中だった

女がこの空間を  
支配していた

情けなく腰を  
振らされる  
父を見る度

ぞくぞくと  
高揚感が  
背筋に走る

手…  
止ま…な…

息を吸う度  
色を帯びた芳香に  
脳髓を犯される

膣内を  
掻きまわす度

今まで拒絶して  
きた快樂の波が  
押し寄せてくる



抱かれながら  
父のすべてを  
呑み込むような

深くへと  
誘うような  
その振る舞いに

私は  
憧れを  
抱いた

もう一回  
だけ…

私の大事な何かを  
書き換えていく  
決定的な憧れを



誰に聞いても  
覚えがなかった



何度視ようと  
しても  
駄目だった

あれが

夢である  
はずがない



ただもう一度  
だけでいい

アム



貴女に…

里へと帰って  
きた私は

帝への拜謁を期に  
目隠しを取る  
ことを許された

同時に男たちとの  
向き合い方は  
大きく変化した

うおっ!?



その…近頃は  
なんだか…

雰囲気  
が変わられ  
ましたな…

…目隠しを  
外したからでは  
ないですか?

積極的に  
なられた  
というか…

私は自ら  
望んで  
ここにいた

儂ら…としては  
そっちの  
ほうが…なあ!

お、おう!



ののなは輸  
へでつっのし  
へてひく  
ひきふく  
はた

いえ

少し

うっ…  
そこ弱…

ひいひ知  
はまつつ  
ふすへて

射精るっ…!

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝゝゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ







千津子……

あに  
義兄さま……

義兄さまは……

こういった  
趣向のほうが  
お好きな  
ようですね

ほら……普段より  
大きくなって  
いらっしやいます



私は  
その術を  
使い

時に応用し

各々が理想と  
する型に私を  
はめ込んでいく

ご自分の腹上に  
好きなだけ  
射精してください

さすまよ



ゆっくりと  
時間をかけ  
少しずつ  
盛られた毒は

もう私の  
味方だった

あの夜  
あの光景を  
見て以来初めて  
父と寝た

言葉はあまり  
交わさなかった

私に芽生えた  
ものとは裏腹に

あの御方なら  
どうしただろうか

私の身体は  
勝手に何度も  
絶頂した



私はあの夜目に  
焼き付けた光景を  
その身に降ろす

腰を押し付け  
足を絡める

より煽情的に

より蠱惑的に

仕草で  
実の父を  
誘惑する

それに呼応し  
父の攻めは  
一層激しさを増す

結合部は泡立ち  
体液が床を濡らす

それは父が  
満足するまで

夜が明ける  
まで続いた

その日から父は  
母と私を  
比べなくなった

父だけ  
ではない

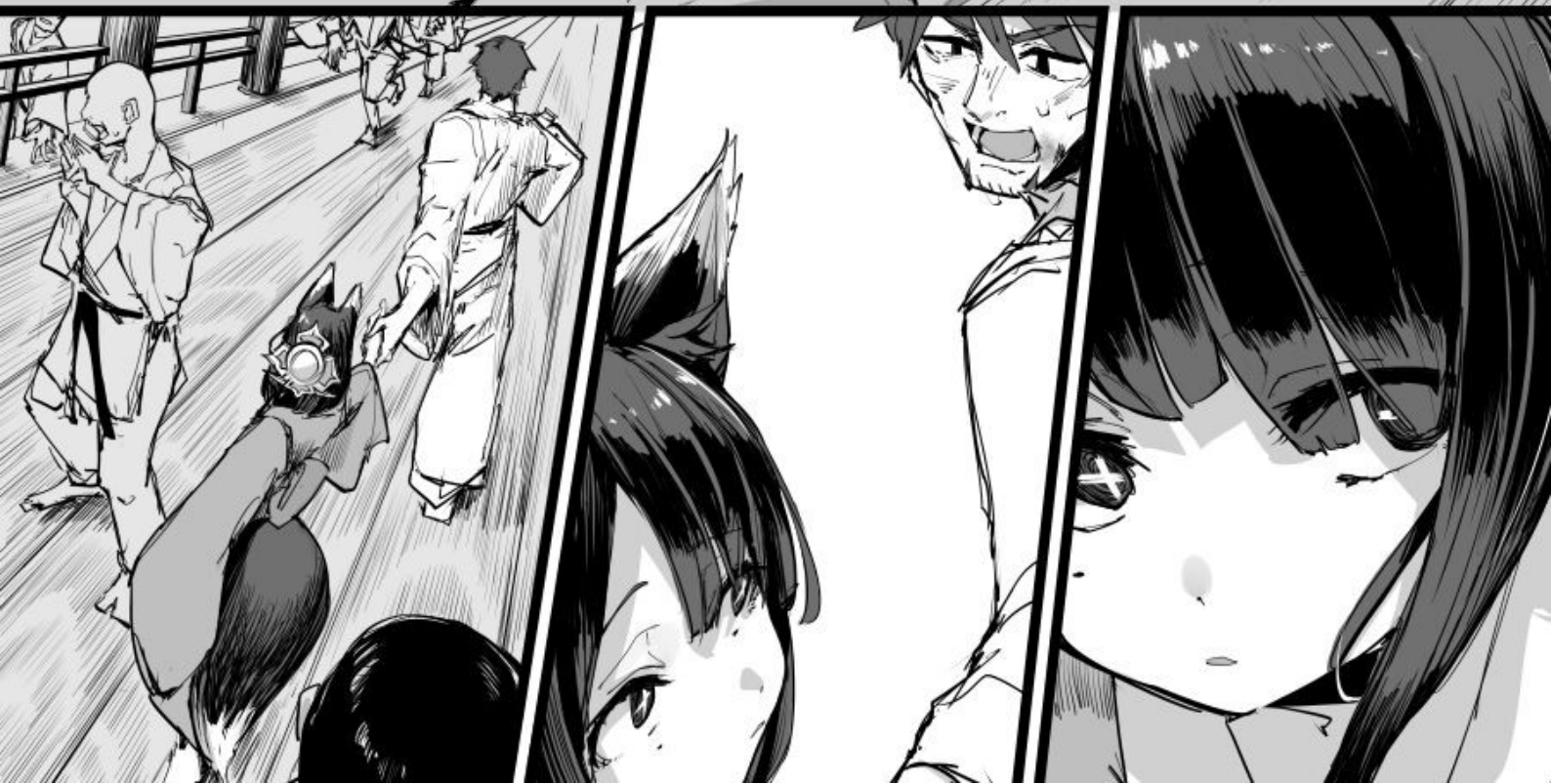
まるで  
一人一人の  
愛人かの  
ように

一つ一つの  
肉茎に私を  
覚え込ませていく

各々の心で  
私の存在を  
大きくしていく

私は肌身で  
感じていた

この家の構図が  
この部屋から  
書き換えられて  
ゆくのを...







…?

里の方が  
仰って  
おりました

千津子…!  
あいつは死んだ!  
もうこんな場所  
居なくていいッ!



何故  
そこまで…



そんなの…



私もずっと…  
そのお姿をこの眼で  
視てきました…

叔父さまが  
毎日私のため  
抗議して  
くださっていると



こんな家の…  
大人の都合に  
巻き込またく  
なかった…

本当はお前の  
ような子供を…



お前を助けると  
約束したからだろ!



…嬉しいです

……



随分遅くなって  
しまったな…



私にはやはり

信頼できる殿方は  
叔父さましか  
おりません…

けれど私には…  
まだこの家で

な  
為すべきことが  
あるのです…



せめて…  
今の私が  
できる  
お礼を…

私にはこれしか  
ありませんから…



トーン

ピタッ



すまなご...  
驚いて...

ただ...

ハッ

ハッ

ハッ



お前と...

その...

そういった関係を  
持つつもりは...

そっ  
それにっ!

俺とお前の  
仲なんだから

今更  
敬語なんて...

おたあ



何故って…  
俺にとつて  
お前は…

実の子の  
ような…

そうですね

何故…  
拒むの  
ですか？

本来親と子は  
体の関係など  
持たぬもの

**お**！  
そうですね  
では…

……  
そうですね…  
困りました

けれどもう私は  
正常な倫理の元には  
いないのです

そんなことッ…！

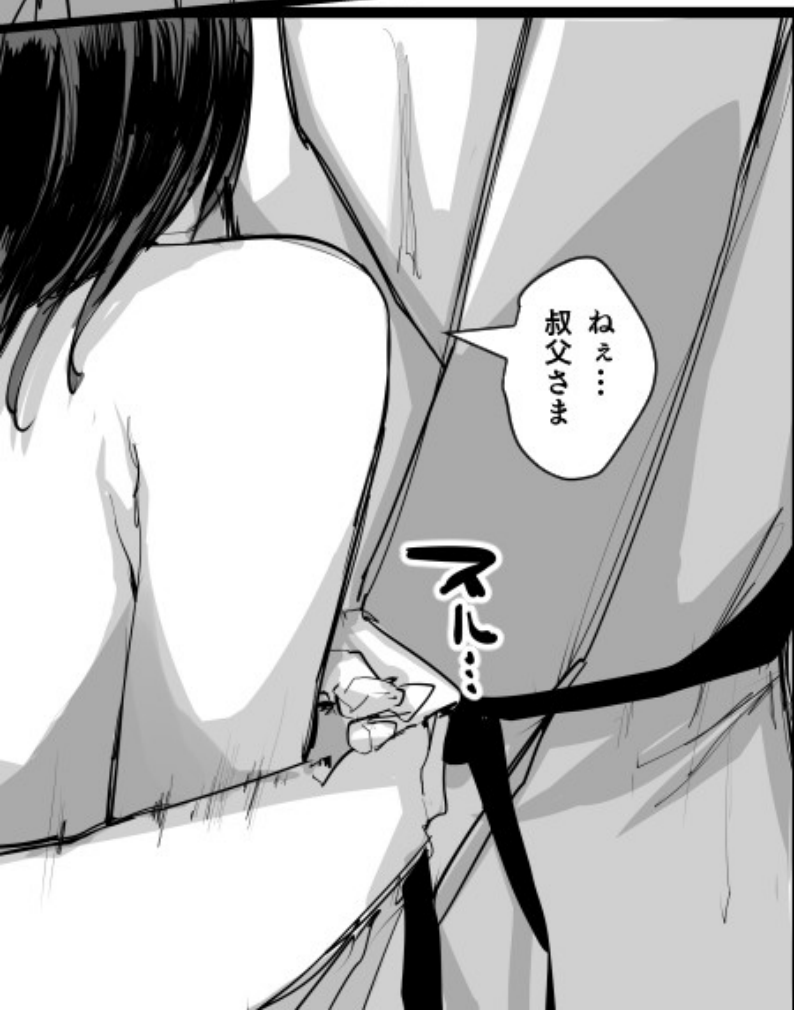
もう一度  
お聞きします

何故私を助けて  
くれたのですか？

私を助けた  
かったから？

それとも…







…ッ！

よくご覧に  
なってください…

もうじき五年…

舐られ…抱かれ…  
犯され…鬪られ…

大人に  
近づいた  
私の姿…

やめろ…



“実の子のように”

叔父さまは  
そうかも  
しれません

けれど私は…  
千津子は…

幼き頃より  
叔父さまの  
ことがずっと…

叔父さまに処女を  
差し上げることは  
叶わなくなつて  
しまいました…

父も家人も  
村の皆さまも



叔父さまも都合がよろしいですよ

そちらの穴のほうが…

それに…

丁寧に耕してございます

私自らじっくりと

まだ誰も手を付けていないおしりのあな不浄の穴

ああ…叔父さまに非はございません

やめるんだ…



やめろ

皆に聞こえてしまいます

れ…

自慰行為を勝手に覗き視た私が人でなしというもの

誰も内に秘めた趣向の一つや二つございます

ドサッ



しーっ

母さまは父さまの  
ものになって  
しまいました…

千津子は  
叔父さまのもの

アハハ



準備は  
できております

潤滑油で  
とろとろに  
ほぐれた

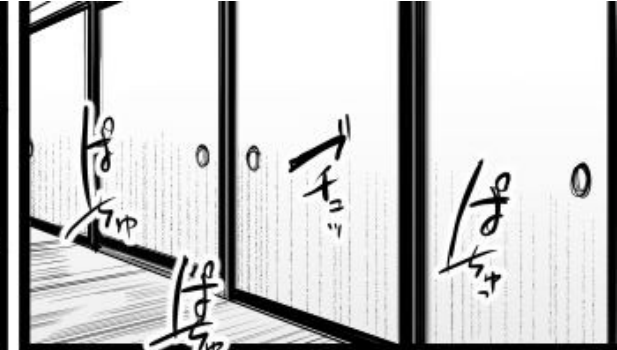
もう一つの  
雌の穴

叔父さまの  
コキ捨て穴に  
してくださいませ

は…

叔父さま

は…





叔父さまのためだけに

クッ

あはっ

クッ





背筋が  
ぞわぞわと……っ

引き抜く度っ

叔父さまを  
離したく  
ないとっ…

ぴったりと壁が  
吸い付いて……っ

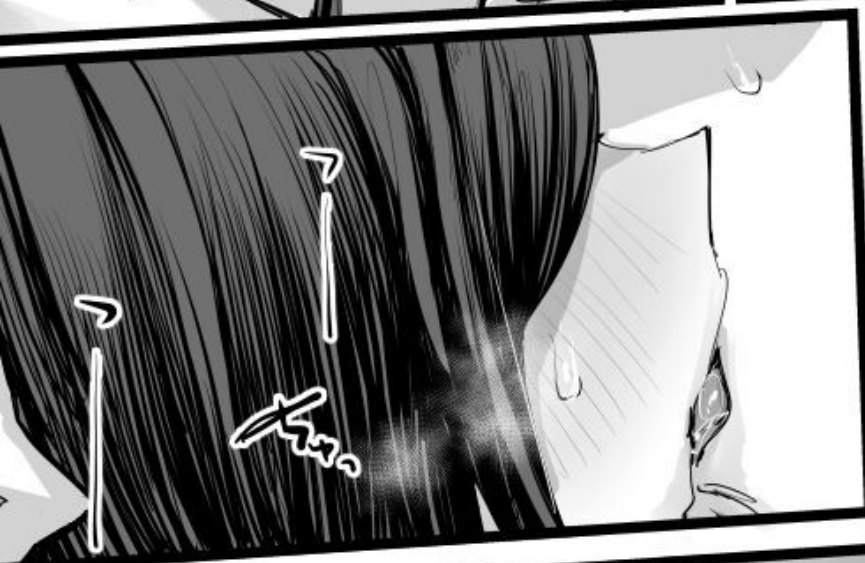
お腹の中ごと  
引きずり出されて  
しまいそう…

ぽんぽん



失礼いたします





あ…来る

昇って…

11, 14

13, 3,

叔父さまの  
精液…

注がれていく…

13, 3,

13, 3,



んっ…叔父…  
さまり、

まだまだ  
こんなものでは  
ありませんよね

知らなかった…

ゴ

ゴ

ゴ

は  
は

は  
は

は





私が叔父さまの  
子を孕むことは  
絶対がない

たぶんこれが  
最初で最後  
なるから



ああ…好き

大好き…  
叔父さま…

だけど…

ニヤカニ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ

グッ



いめんなご

うわあ

うわあ

うわあ

うわあ

うわあ

うわあ

うわあ

うわあ



千津子は...

叔父...さま...

千津子...  
その...

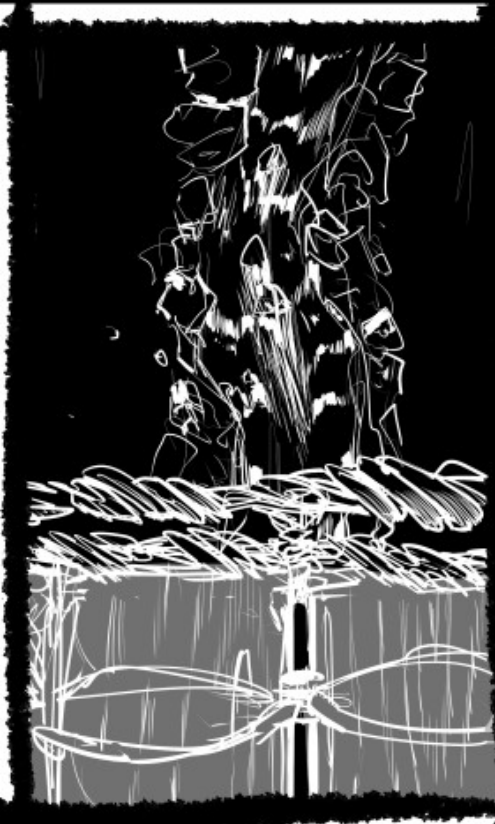
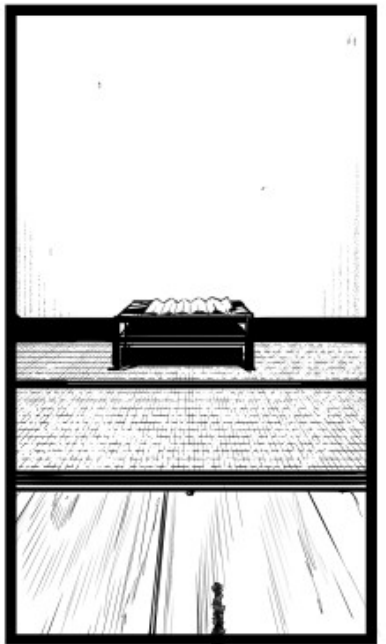
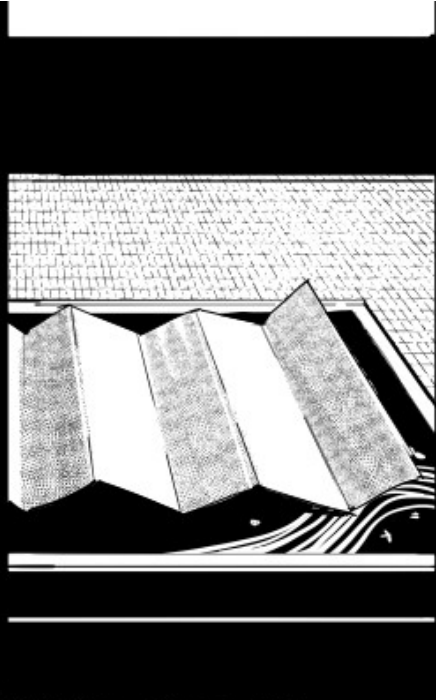
母さまより大事な人になれたかな...

叔父さまの...

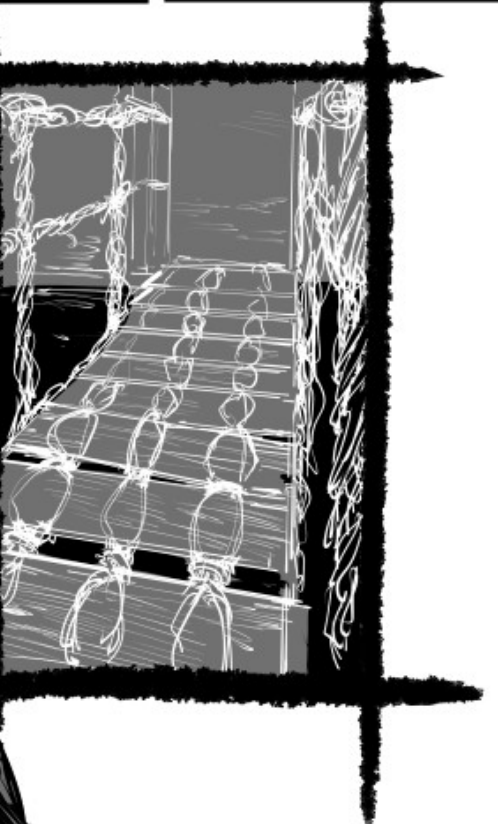
.....



こうなると  
わかっていて  
誘惑した



こうなると  
わかっていて  
あの言葉を選んだ



わかっていたはずだ

はあ

はあ



はあ

はあ



今も  
脳を焦がし  
続ける憧れ

大好きな  
叔父と



私の秤は

最後には必ず  
好きと憧れを  
秤にかける  
ときがくる



憧れに  
傾いてしまった

私が裏切った

なんで  
こんなことに

もう叔父さまと  
話せない

最低な女

こんなことの  
ために

助けて

もう後に  
退けない

あの御姿を  
もう一度

正当化するな

抗えない

ごめんなさい

他の何を

犠にして

月に行かなきゃ

必ず成功させる

私は悪くない


生きてて  
ほしかった

二人で一緒に

あの方のように

他に方法は  
なかったのか





薄暗く  
襖に閉ざされた部屋

人肌と人肌が  
ぶつかる音

男女が  
交わる匂い



ここは  
私が望んだ  
蟲毒

子種を競わせ  
選り抜くため  
だけの場



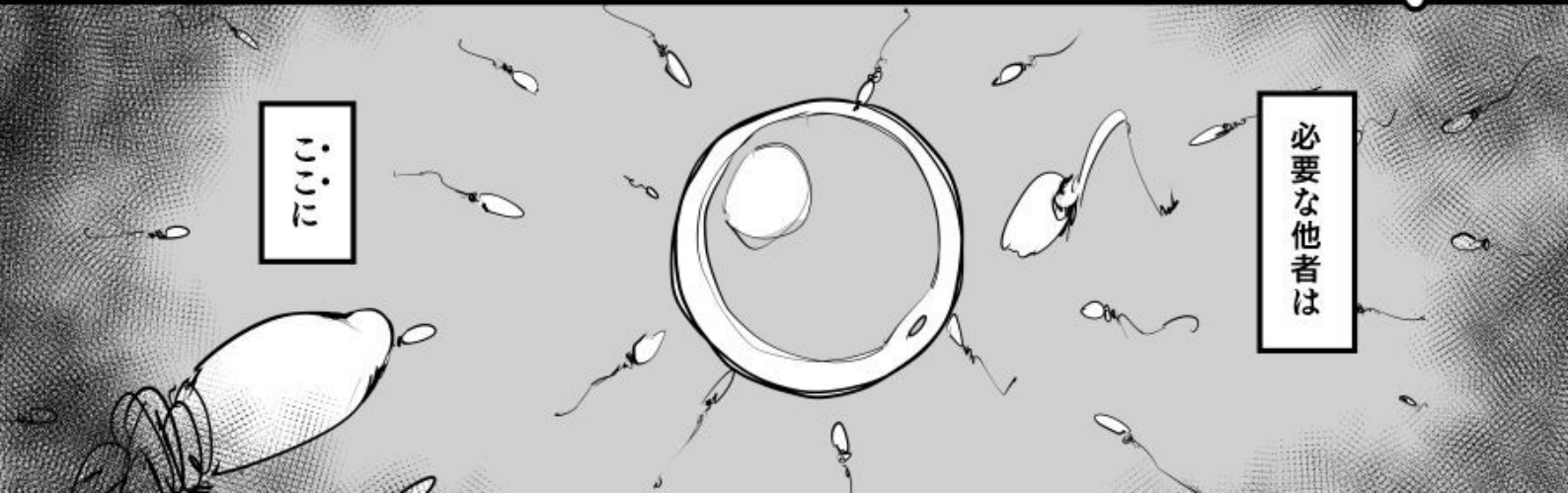
必要な情報は  
この眼で集めた



他者の肉体へ  
魂を移し  
生き永らえる  
不死の法



あの日  
帝が  
謳っていた



びんびん

必要な他者は

この家  
伏見の呪いは  
私だけのもの



どれほど  
時間が  
かかっても

私が月へと  
至るまで